1液水性反応硬化形ウレタン樹脂皮脂軟化対策塗料

ホルムアルデヒド放散等級	F☆☆☆☆

ニッペ 水性ファインウレタンU100Ⅱ

多機能タイプの環境配慮形水性ウレタン塗料
レオロジーコントロール(粘性制御)により弱溶剤塗料並みの
平滑な仕上がりと作業性を実現します

防火材料認定番号	品目名
NM-8585	塗料塗装/不燃材料
QM-9816	塗料塗装/準不燃材料
RM-9364	塗料塗装/難燃材料

■特長

①皮脂軟化抑制機能
一般的な塗料と比較し皮脂となじみにくい樹脂成分を採用することで、皮脂の塗膜浸透および軟化を抑制し、塗膜表面のベタつきが発生するリスクを低減させます。

②優れた作業性・仕上がり性
レオロジーコントロールにより従来品と比較して更に美しい仕上がりを実現しました。

③水性鉄部塗装が可能
「1液水性デクロ」等の水性さび止め塗料との組合せにより、内外部での鉄部塗装が可能です。

④優れた密着性
密着性に優れているので、様々な場面で安心してお使いいただけます。

⑤環境にやさしい水性塗料
水性塗料のため臭気も少なく、安全にお使いいただけます。

⑥透湿性
塗膜には透湿性がありますので、膨れやはく離を抑制します。

⑦防藻・防かび性
藻やかびの発生を抑制する効果があり、美観維持に役立ちます。
強力防かびタイプのオプション付与が可能です。

⑧多用途
用途に適した下塗りを選択することで、鉄部、外壁などの新設・塗り替えに幅広くご使用いただけます。また、硬質塩ビ、FRPは研磨を実施することで、上塗りを直接塗装いただけます。

■用途
戸建住宅・マンション・商業施設など
臭気配慮が必要な内・外壁面の新設・改修塗装
内部および外部の鉄部新設・改修塗装

■適用下地
新設適用下地：鉄部・木部・コンクリート・モルタル・石膏ボード・ALCパネル・けい酸カルシウム板などの各種素材
改修適用下地：上記各種素材面および鉄面の各種旧塗膜

■標準塗装仕様

●一般鉄部改修塗装仕様(内部・外部)

塗装工程	塗料名	使用量(kg/㎡/回)	塗り回数	塗り重ね乾燥時間	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜、さび、付着物などをワイヤブラシ、ケレン棒、電動工具などで除去し、乾燥した清浄な面とする。						
※下塗り	1液ハイポンファインデクロ	0.13～0.15	1	4時間以上7日以内	塗料用シンナーA	5～10	はけ・ウールローラー
	1液水性デクロ	0.13～0.15	1	4時間以上7日以内	水道水	0～5	はけ・ウールローラー
上塗り	水性ファインウレタンU100Ⅱ	0.08～0.10	2	3時間以上	水道水	0～10	はけ・ウールローラー

※上記下塗り以外に、ハイポン20デクロ、ハイポンファインプライマーⅡ、パーフェクトプライマー、水性ハイポンプライマー、オーデハイポンプライマーなども使用できます。
※さびが発生しやすいエッジ部もしくはさびが発生している個所を塗装する場合、入念なケレン後、下塗り塗料(さび止め塗料)で部分補修塗りしてから下塗りしてください。
下塗りに水性ハイポンプライマー、1液水性デクロ、オーデハイポンプライマーを選択するとオール水性鉄部仕様となります。
※下塗りに水性ウッドベースⅡを使用することで、内部木部にもご使用いただけます。

●コンクリート面　微弾性フィラーを用いた改修塗装仕様(外部)

塗装工程	塗料名	使用量(kg/㎡/回)	塗り回数	塗り重ね乾燥時間	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修工事が必要な場合は、下地調査結果にもとづいて、塗装工事前に実施する						
下地調整	活膜は残すが、ぜい弱化した塗膜の表面および膨れなどは入念に除去する。下地を十分に乾燥させ、汚れ、付着物などを除去し、サンドペーパー・ウエスなどで清浄な面とする。外壁の場合、粉化物、付着物などは高圧水洗機を使用し、除去清掃を行う。						
下塗り	パーフェクトフィラー	0.50～0.90	1	4時間以上	水道水	1～5	砂骨ローラー
		0.20～0.45				3～8	ウールローラー
上塗り	水性ファインウレタンU100Ⅱ	0.10～0.12	2	3時間以上	水道水	0～10	はけ・ウールローラー

※ニッペパーフェクトフィラーをローラー施工する際に、高温時や風が強い場合などの乾燥が速まるような条件下では、希釈率を上限値の範囲内で調整することを推奨します(作業性や仕上がりの向上を更に図ることができます)。
※上記下塗り以外に、アンダーフィラー弾性エクセルも使用できます。

●コンクリート面　石膏ボード面など新設塗装仕様(内部)

塗装工程	塗料名		使用量(kg/㎡/回)	塗り回数	塗り重ね乾燥時間	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	ごみ、未硬化セメント粉末、砂じん、油脂分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする							
下塗り	水性カチオンシーラー	透明	0.10～0.16	1	4時間以上	無希釈	—	ウールローラー
		ホワイト				水道水	0～10	
上塗り	水性ファインウレタンU100Ⅱ		0.10～0.12	2	3時間以上	水道水	0～10	ウールローラー

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。
塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間を守ってください(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)。
※カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されております。
特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業までご相談いただきますようお願いします。
※旧塗膜は、健全な状態であることを想定しています。

NIPPON PAINT

ニッペ 水性ファインウレタンU100Ⅱ

■塗装基準

塗装方法	はけ・ウールローラー塗り
希釈率	0～10%
使用量	0.08～0.12kg/㎡/回

・上記の各数値は標準的な数値です。被塗物の形状、素地の状態、希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

■塗り重ね乾燥時間

	5～10℃	23℃	30℃
塗り重ね乾燥	6時間以上	3時間以上	3時間以上

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

■耐皮脂軟化試験の結果 人の手が触れやすい個所で2ヵ月経過観察



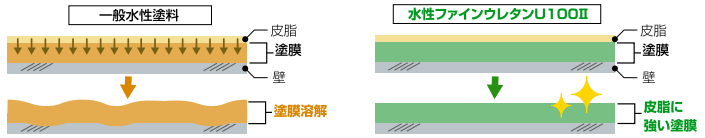
水性ファインウレタンU100Ⅱ
塗膜表面のべたつきが極めて軽微で清潔

従来水性塗料
塗膜表面にべたつきが発生し、汚れが付着

一般NADウレタン塗料
塗膜表面にべたつきが発生し、汚れが付着

1日40人程度（もしくは100回程度）の往来がある押し扉に貼り付け、入るたびに人の手が触れる状況に2か月間設置し、経過観察実施

■耐皮脂軟化性イメージ 〔● 親油性モノマー ● 親水性モノマー〕



水性ファインウレタンU100Ⅱは、皮脂と馴染みにくい親水性モノマーを採用することで一般水性塗料よりも高い耐皮脂軟化性を発揮します

■容量・荷姿

塗料名	色相	つや	容量	希釈剤	希釈率（%）	使用量（kg/㎡/回）	塗装方法
水性ファインウレタンU100Ⅱ	各色	つや有り 5分つや有り 3分つや有り	15kg・4kg	水道水	0～10	0.08～0.12	はけ・ウールローラー

■施工上の要点と注意事項（詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください）

1. 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、やむを得ず塗装する場合は、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
2. 蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン塗装建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
3. 塗装場所の気温が 5℃未満、もしくは湿度 85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
4. FRP、塩ビに直接塗装する場合は、下地調整（目粗し）を実施してください。厚肉硬質塩ビなど素材の種類により非常に付着し難い素材の場合がありますので、あらかじめ試験塗装を実施し付着性を確認してください。
5. つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
6. つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通しで塗装してください。
7. 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
8. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
9. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
10. 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
11. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
12. 著しい汚染が発生しそうな個所には、状況に応じてニッペクリスタコートをオーバーコート剤として塗装することで汚染を軽減することができます。
13. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
14. 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
15. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
16. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
17. 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のはけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
18. 動物はけは、はけが固まったりダマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
19. 繊維壁、耐火被覆用けい酸カルシウム板、ロックウールなどの非常にぜい弱な素材には塗装できません。
20. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
21. 内部塗り替えにおいて旧塗膜が SOP、FE などの油性系の場合、研磨ずりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
22. 既存塗膜のはく離個所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
23. 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ 1 液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸い込み個所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
24. 塗り替え時のシーラーは、ウルトラシーラーⅢまたは水性カチオンシーラーをご使用ください。 溶剤系シーラーのご使用は、旧塗膜の種類によっては溶剤膨れを発生させることがあります。
25. シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
26. タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行なってください。
27. 素地表面のアルカリ度は pH10 以下、表面含水率は 10%以下（ケット科学社製 CH-2 型で測定した場合）、または 5%以下（ケット科学社製 Hi500 シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
28. 表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
29. ALC 面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペ 1 材カチオンフィラー、ニッペ 1 材フィラー# 200）などで処理してください（合成樹脂エマルションパテの使用は避けてください）。
30. 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
31. 材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用ください。
32. 新設の押出成形セメント板、GRC 板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ 1 液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
33. カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
34. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
35. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
36. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
37. シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペプリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
38. スチールドア枠回りなどシーリング材との接触が起こる部分への塗装は避けてください。可塑剤の移行などにより塗膜が軟化、はく離し、シーリング材の機能を損なう可能性があります。
39. 笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
40. 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
41. 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠ぺい出来ない場合があるため、事前に試験施工塗り板等でご確認ください。
42. 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
43. 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、弱溶剤タイプのピュアライドUVプロテクトクリヤーシリーズ（MK/DF/Si）を上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
44. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
45. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
46. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
47. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
48. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
49. 塗装面以外に付着した場合は、乾燥するまでにラッカーシンナーまたは塗料用シンナーで洗い落としてください。
50. クロスの上の塗装は避けてください。
51. 布クロス、紙クロスや汚染防止のクロス（シリコン加工され水をかけると著しくはじくクロス）には塗装できません。塩ビクロスで可塑剤移行が考えられる場合は水性シミ止めシーラーを塗装してください。
52. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
53. 可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
54. 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
55. 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
56. 開封後は一度に使い切ってください。 やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
57. 大気中の浮遊鉄成分が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。
58. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
59. 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
60. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート（SDS）をご参照ください。
■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎ 011-370-3101
東北支店 ☎ 022-232-6711
関東支店 ☎ 03-5479-3614
北関東信越支店 ☎ 03-5479-3614
中部支店 ☎ 052-461-1960
近畿支店 ☎ 06-6455-9608
中国支店 ☎ 082-281-2180
四国支店 ☎ 0877-56-2346
九州支店 ☎ 092-751-9861

●本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
●本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
●ⓒCopyright 2026 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.

●日本ペイントホームページ https://www.nipponpaint.co.jp/

カタログNo.
NP-E169
AA261102T
2026年11月現在